

H25. 4. 22 原子力委員会定例会資料

大熊町教育長 武内 敏英

はじめに

○原発は国策 ○全町避難

1. 危機管理と原発安全神話

(1) 危機管理

①危機管理の「さ・し・す・せ・そ」→(さ)最悪を想定し

②ハインリッヒの法則→原発の過信につながった(?)

(2) 安全神話・・・「原発は多重防護、絶対に安全」

↳ どっぴりつかって40年、事故は起きた。

2. 福島県におけるリスクコミュニケーションの課題

(1) なぜ、国や県からの情報が信頼されなくなったのか

①「安全神話の崩壊」が最大の要因

②情報の一元化に失敗…オフサイトセンター機能せず

③年100ミリシーベルト以下への対応

・安全か危険かの単純化に・・・研究者の立ち位置

・健康に直ちに影響を及ぼすものとは考えられません。

(2) 最も知りたいこと…年20ミリシーベルトと1ミリシーベルトの間、

いつまで避難していれば帰宅できるのか、そのシナリオを示して欲しい。

(3) リスクコミュニケーション再構築に向けて

①情報をリアルタイムで、「今、ここで」

②地道に共通認識の積み上げ(国、住民、専門家)

————→ 「正しく恐れる」視点が大切

③“気にする派”の人々も納得して暮らせる最大限の努力をしていく。

————→ 「気にすることはない」ではすまされない

④講演よりは少人数単位での対話・・・ワールドカフェ

3. 「子ども＝未来」の原子力行政を

(1) 原発事故…子孫何代にわたる負の遺産

(2) 子どもの被曝は別格に考える

(3) 主体性を持った子どもたちの育成

←伊丹万作氏のことば

おわりに

○情報の開示と説明、住民とのきめ細やかな対話

○「正解はない」